

令和 6 年度 県立緑岡高等学校自己評価表

目指す学校像	文武不岐の伝統精神のもとに教育活動を推進し、高い知性とたくましい心を持ち、社会に貢献する人材を育成する。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○「探究的態度」によって自ら進んでしたたかに学び続けられる人材 ○「柔軟な発想」によって他者と調和できるしなやかな心をもった人材 ○「協和の精神」によって社会の発展としあわせの実現に貢献できる人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○探究を基礎とした教育課程による、普通科の多様性に応える進路希望の実現 ○探究を核とした教育課程による、理数科の専門性を生かした進路希望の実現 ○主体的な社会参画のための自治的活動の推進による、社会性と倫理観の醸成	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○自ら学び、自ら考えようとする意欲にあふれた生徒 ○多様なものの見方や考え方を受け入れようとする生徒 ○思いやりの心をもって自他のしあわせについて考える生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・国公立大現役合格は 118 名であった。昨年度まで 7 年連続で 120 名以上の生徒が国公立大学に合格していたが、今年度は 120 名に届かなかった。共通テスト等の結果を見ると、学力的には例年と同様かそれ以上の力がついており、生徒や保護者が国公立大学にこだわらず、多様な観点で進学先を選択していることがうかがえる結果となった。上位校については、東北大学に 2 名、東京外国語大学に 2 名、北海道大学に 1 名現役で合格している。筑波大は 10 名、茨城県立医療大は 4 名、茨城大は 42 名の現役合格者を出した。筑波大学の合格者が 10 名に達したのは平成 29 年度入試以来のこととなる。 ・私大の上位校早慶上理・GMARCH など東京都内の主要私立大学は、それぞれのべ 7 名・93 名の現役合格者を出した。GMARCH ののべ合格者数は過去最多となっており、この結果からも生徒や保護者が多様な選択肢から進学先を選択する姿勢がうかがえる。	I 生徒の主体性を引き出すカリキュラム開発と授業改善	①探究的な学びを中心に、コミュニケーション能力・批判的思考力・論理的思考力を育成する。 ②自学・自習の習慣を確立し、自ら問いを発しつつ自走できる主体的な学習態度を育成する。 ③「観点別評価チェック項目シート」を活用し、付けたい力を明確にした学習評価を実践する。 ④生徒による授業評価において、授業満足度関連項目における評価の平均値 3.0 以上を目指す。	
	II 生徒の自己実現のための進路指導と進路選択の充実	⑤生徒に高い志をもたせる機会を積極的に設け、キャリアパスポートを効果的に活用する。 ⑥個別面談等を通して生徒の「進路設計と課題の明確化」を図り、進路意識を向上させる。 ⑦学年、教科、学習進路指導部の協働により、学びに向かう力を育成し人間性を向上させる。	
	III アントレプレナーシップに基づく自己指導力の向上	⑧各教科・領域、活動の指導事項を横断的に捉え、自主性、自立性及び創造性を育成する。	

別紙様式 2 (高)

・学習室等を利用して、自学自習に励む生徒の姿は多く見られるようになっている。進学意識が高い生徒が増え、早いうちから進路室を訪れるようになり、相談や資料探し、貸し出し図書の利用も多くなった。 ・1年2年次において、学習量の絶対量の不足は続いており、学習している生徒とそうでない生徒の差が大きい。「対話的で深い学び」の実践が求められる一方、学びを深めるために必要とされる基本的な知識の定着が不十分な生徒も増えてきている。 ・制服は生徒との話し合いながらの校則改正もあり正しく着こなせている。自転車運転マナーも身に付きつつあるが、一部の生徒に並進運転が見受けられる。また、携帯やスマートフォンの使用マナー等に関して課題がある。 ・運動部・文化部とも高い加入率を維持し、活発な活動により成果を上げた。今年度も学習との調和を重視し、自主的・主体的な活動を促していきたい。			⑨新たな価値を創造する意欲をもって、社会や地域の課題を見つけ、解決する力を育成する。 ⑩校則等の見直しなど、生徒が自ら考え判断する場を設定し、自治的な活動を充実させる。		
IV S S H事業、国際交流事業及び社会貢献活動の推進		⑪課題研究・探究活動の質的向上と共通理解を図り、教科横断的視点での組織作りを実践する。 ⑫高大連携事業の実施に必要な人的、物質的な体制を確保しつつ、その改善と充実を実現する。 ⑬S S H事業、国際交流事業の成果を、学校説明会や学校H Pを通して地域や社会へ還元する。			
V 働き方改革の実践及び、教職員の教育力の一層の向上		⑭部活動・学習課外・模擬試験等の業務運営時間や方針を明確にする。 ⑮「学校風土調査」結果に基づき、生徒に伴走する意義を明確にする。 ⑯校外研修・視察等に積極的に参加し、その成果を全体で共有する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
1 学年	・授業を中心とした学習活動と自学自習の主体的な学習スタイルの定着を図る。	・家庭学習の定着を図るとともに授業を中心とした予習・復習の学習スタイルを確立させ、主体的に学ぶ姿勢を育成する。①②③④⑤⑥			
		・英語や国語の小テストなどの実施により、学習の習慣化と基礎力の定着を図る。提出物の期限を厳守させ、学業重視の態度を育成する。①③④⑤⑥			
		・補習や課外を実施して、生徒の個々に応じたきめ細やかな指導を行う。①②③④⑤⑥			
	・基本的な生活習慣の確立をめざし、規律正しい学校生活が送れるよう自己指導力の醸成に努める。	・個別面談や学校行事、クラス行事など様々な場面において、積極的に生徒と接し、適切な指導や支援を行い、自律的な生活の定着を図る。⑦⑧			
		・緑高生としての誇りを持たせ、あいさつの励行、身だしなみや規範意識の高揚を図る。⑦⑨			
		・整理整頓を心がけ、自ら進んで清掃するなど環境美化を指導する。⑦			
	・互いに個性を尊重して健全な人間関係の構築と共に、自主性・自立性及び創造性の育成を図る。	・学校行事、部活動、生徒会活動に積極的に取り組ませることで、生徒個々のコミュニケーション能力、主体性、協調性を育み、人間的成長を促す。⑧⑩⑪⑫			
		・HR活動や学校行事を通して、相手を尊重する心や積極的に集団へ寄与する姿勢、市民としての資質・能力を育み、人間的な力量・能力の向上を図る。⑩⑪⑫⑭			

別紙様式 2 (高)

	・将来自分が就きたい職業や、興味のある学問を考え、進路目標の明確化を図る。	・キャリア講演会・進路講演会・全日 HR を実施し、進路意識の啓発を図り、進路目標の明確化を支援する。⑦⑧			
		・的確な学科コース選択を支援するためにキャリアパスポートの効率的な活用を充実させる。②④⑦			
		・学科コース選択のための生徒面談を実施すると共に、「Classi」等の活用により情報を提供し、保護者と連携を図り、適性に応じた適切なアドバイスを行う。③⑦⑬⑭⑮			
		・「探究 I」を中心として課題解決型学習の機会や教科横断的学習の機会を積極的に創造していく。②③④⑥⑦⑬⑭⑮			
2 学年	・授業を中心とした学習活動と自学自習の習慣化を図る。	・課題や予定を Classi 等を利用して各自で管理させることで、自律的な家庭学習の定着を図り、授業を中心とした予習復習の学習サイクルを確立させる。②③④⑦			
		・英語や国語の小テスト、数学の章末テスト等の実施で、学習の習慣化と基礎力の定着を図る。また、始業前時間や休み時間の効果的な利用を勧め、自学自習の態度を育成する。②			
		・補習や課外、面談等を実施して、生徒の個々に応じたきめ細やかな指導を行う。③⑤⑥⑬			
		・授業・HR・学年集会等のあらゆる機会に、2 学年での学習習慣の重要性を認識させ、自ら学ぶ姿勢を確立させる。②④			
		・ICT を積極的に利用し、個別に最適化された学びや協働学習に役立てる。①			
	・基本的な生活習慣の確立をめざし、規律正しい学校生活が送れるように努める。	・個別面談、学校行事、クラス行事など様々な場面において、積極的に生徒と接し、適切な指導や支援を行い、自律的な生活の定着を図る。⑦⑨			
		・学年団の共通理解のもと、あいさつの励行、端正な身だしなみや規範意識の高揚を日常の学校生活において促す。④⑨			
		・日頃から整理整頓を心がけ、自ら進んで清掃するなど環境整備を指導する。⑨			
	・互いに個性を尊重し健全な人間関係の構築を図る。	・学校行事、部活動、生徒会活動に積極的に取り組ませることで、生徒個々のコミュニケーション能力、主体性、協調性を育み、人間的成長を促す。⑦⑨			
		・HR 活動や学校行事を通して、相手を尊重する心や積極的に集団へ寄与する姿勢を育み、人間的な力量・能力の向上を図る。⑧			
		・修学旅行を通して、国際平和の重要性について考えるとともに、協調性と集団生活のあり方を学び、今後の生活に生かせるようにする。⑧⑪			
		・海外研修を通して、国際性とコミュニケーション能力を育成し、語学、科学への興味を深め、進路決定に生かす。⑧⑪			
	・進路目標を設定し、進路目標達成に向けて、環境をしっかりと整える。	・大学見学や大学研究、模擬試験等を通して、志望大学・学部・学科を絞り込ませ、進路目標の具体化と受験の準備目標の明確化を図る。②④⑤⑥⑩			
		・各科目の弱点克服に向け、基礎学力の強化を図る。②⑥			
		・進学に対しての意識の強化を図り、2 年から 3 年の受験に向けた学習計画を立てさせ、自立的学習へ移行させる。②③④⑤⑥⑪			

別紙様式 2 (高)

3 学年	・授業を中心とした学習活動と各自の目標にあった自学自習の習慣を確立させる。	・自律的な家庭学習の定着を図るとともに授業を中心とした予習・復習の学習スタイルを確立させる。①②		
		・補習や課外、面談等を実施して、生徒の個々の適性に対応した個別最適な学びになるようにきめ細やかな指導を行う。⑦		
		・ICT を積極的に利用し、個別に最適化された学びや協働学習に役立てる。①②③		
	・きめ細やかな指導を通して生徒の第一志望の進路実現を図る。	・理数科においては、S E 課題研究のまとめを行い、研究発表会を成功させられるよう支援する。⑩⑪		
		・個人面談や進路講話等を通して、進路実現に対しての意識の高揚を図り、進路目標を明確にさせ、時期に応じた適切な学習計画を立てさせ、実行させる。⑤⑥		
	・最高学年として、規律正しく行動し、充実した学校生活が送れるようにする。	・大学卒業後の職業観も含め、大学について十分に研究させ、志望大学・学部・学科を絞り込ませ、進路目標を明確にさせる。⑤⑥⑦⑧		
		・あいさつの励行、身だしなみや規範意識を日常的に継続して持てるよう促していく。⑨		
		・個別面談や学校行事、クラス行事など様々な場面において、積極的に生徒と接し、適切な指導や支援を行い、自律的な生活の定着を図る。⑦⑧		
		・日頃から整理整頓を心がけ、自ら進んで清掃するなど環境の整備に対する意識を高める。⑨⑩⑪		
	・成人としての自覚と責任を持ち、互いを尊重し健全な人間関係の構築を図る。	・成人としての自覚を促し、社会的な義務や責任を果たせるよう助言する。⑧		
・学校行事、部活動、生徒会活動等で経験してきたことを踏まえて、自ら考えて判断し行動することを通して人間的成長を促す。⑦⑧				
・HR 活動や学校行事を通して、相手を尊重する心や積極的に集団へ寄与する姿勢を育み、主体性・自律性・創造性の育成を図る。⑨				
国語科	・自学自習の習慣化を目指す。	・授業進度計画に沿い、かつ生徒の実態に応じて授業を行う。③		
		・学習ガイダンスを実施し、適切な予習復習の仕方を提示する。各授業においてその定着を図る。②		
		・授業や時事の話題と関わる文学作品・新聞・新書等も含めた、幅広く適切な分野の読書案内を通じて、読書意欲を喚起する。①		
	・音読を重視する。	・句読点や抑揚に留意し、各教材文の特性を意識させた音読指導を実施する。②		
	・語彙力・記述力の定着を図る。	・大学入試共通テストに対応した語彙力・記述力を身に付けられる授業を展開する。身に付けた語彙力や記述力を使い、論述問題や小論文等に対応できるようにする。①⑦⑧⑩		
	・古語や古典文法の理解・習得を目指す。	・小テスト等も活用し、基本事項の定着を図る。②		
		・辞書、文法書等の補助教材を適切に活用する授業を展開する。②		
		・作品を通じて、品詞の働きや古語の表現上の特徴に慣れ、読解に役立てるような授業を行う。②		

別紙様式 2 (高)

	・漢語や漢文句法の理解・習得を目指す。	・小テスト等も活用し、基本事項の定着を図る。②			
		・代表的な句法を、用例を通して定着を図る。②			
地歴公民科	・計画的な学習指導を実施する。	・年間指導計画に沿って授業を行う。①②③			
		・年間指導計画を活用させることで、生徒に自学自習の習慣を確立できるよう支援し、生徒の主体性と意欲を引き出す工夫をする。①②③			
	・基礎的内容の理解の徹底と授業方法を研究する。	・進学・受験に向け、学習ノート・演習問題集の利用をすすめ、基礎的知識を習得させる。①②③			
		・課題学習や調べ学習などを実施し、対話や発表を通し、コミュニケーション能力・批判的思考力・論理力を育成する。①②③⑦⑧⑩			
		・ビデオ・パソコン・プロジェクターなどの I C T 機器を効果的に利用する。①②③			
	・生徒の学習活動を適切に評価する。	・学年・学科・類型に対応した適切な考查問題を作成する。①②③			
		・ノート・レポート提出、発表態度などを含めて総合的な評価を行う。①②③			
		・観点別評価に留意し、知識・理解に偏らない評価を行う。③			
数学科	・基礎的内容の理解と学習習慣の定着の徹底を図る。	・予習・復習を徹底させることで学習習慣の定着を図る。①②③			
		・生徒が理解しやすいような授業を展開し、学習課題を工夫することで基礎内容の理解を図る。①②③			
	・入試に対応できる応用力・表現力の育成を図る。	・平常課外や土曜講座、長期休業中の課外、章末問題の演習等を利用して応用力の育成を図る。①②③⑥			
		・各章末の探究問題や課題学習を用いて、単元で学んだ内容を日常生活に応用したり、違った視点でのアプローチをグループ学習によって思考させることで、正解のない問いへ協働して納得解を導く機会を与える。①②③			
		・定期考查や課題考查、単元テストや課題等の添削を通して、答案の記述の仕方について指導する。1、2 年生では、大学入学共通テストを意識した問題を考查に取り入れる。③⑦⑩⑪			
	・指導方法の研究を行う。	・大学入学共通テスト等の動向を踏まえ、数学的な見方・考え方を働かせながら、問題を自主的、協働的に解決することができるよう、主体的・対話的で深い学びの実現を図るための指導法の研究を行う。③⑦⑩⑪			
		・ICT 機器の利用と指導と評価の一体化について、研究を行う。③⑦⑩⑪			
		・ICT の活用方法について研究し、生徒のタブレット端末を十分に活かした授業展開を工夫することで、授業満足度評価の数値目標達成を目指す。③⑦⑩⑪⑫			
	・スーパーサイエンスハイスクール (S S H) の円滑な運営を行う。	・S S 数学 α 、S S 数学 β 、S S 数学 γ の目標に基づいて、理科、情報や課題研究の担当者と連携して実施する。⑦⑫			
		・「S E 課題研究」の充実を図る。⑩⑪⑫			

別紙様式 2 (高)

理科	・基本的内容の定着の徹底を図る。	・ 考査、模擬試験、小テスト、振り返りシート等の結果から生徒の基礎的・基本的事項の理解度を確認し、学習指導に生かす。②③			
		・ 理解が不十分だと思われる生徒に対して、補習や課外授業などにより基本的内容の定着を促す。②③			
		・ 学習課題の明確化による、ポイントを押さえた授業を行う。①②③④⑥			
	・ 科学的な思考力・表現力の育成を行う。	・ 観察、実験を通して主体的に学べる学習場面をバランス良く設け、考察過程において対話的で深い学びを実現するように学習活動を工夫する。①②③④⑥⑧			
		・ 科学的な概念を踏まえて考察したことの口頭発表やパワーポイント、ポスター等を用いたプレゼンテーション、報告書の作成など発表の機会を多く設定する。①②③④⑦⑮			
	・ 基本的内容を受験で生かすための応用力の育成と向上を目指す。	・ 理解が深まる授業展開と、生徒一人ひとりが大学入試を意識できる問題演習を系統的に行う。②③⑥⑦			
		・ 課外授業は個々の習熟度に合わせて実施するとともに、授業や自学自習と効果的に結び付いた指導をする。①③⑤⑦			
		・ 各大学の出題傾向を研究・分析することにより、より効果的に応用力を向上させる授業を展開する。②③⑥⑦			
	・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の円滑な運営を行う。	・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業を他教科や分掌と連携して滞りなく運営する。⑩⑪⑫			
		・ 科目横断的な内容を扱い、SE 課題研究や SP 探究、探究 I との関連を図る。 ①②⑦⑩⑪⑫			
保健体育科	・ 体力の向上を図る。	・ 体力テストを実施し、自己の体力を認識させ、体力の保持増進に対する意識を高めさせる。 ④			
		・ 運動量の確保に努める。④			
		・ 女子生徒の体力の向上を図る。④			
	・ 技能の向上を目指す。	・ 各単元において、個に応じた指導を工夫し、技能の修得とスキルの向上を目指す。 ②③④⑤			
		・ 3 年次に選択授業を実施し、生徒に主体的な活動を実践させることによりマイスポーツの獲得につなげるようにする。②③④⑤			
	・ 健康・安全への意識を高める。	・ 日常生活の中で健康に関心と自覚を持ち、運動やスポーツを実践する中で安全面に配慮するとともに用具管理の徹底に努める。④⑩			
		・ 集団行動を通し、公正・協力・責任などの態度を育てる。④⑤⑩			
		・ チャイムと同時に県民体操を実施し、保健安全への意識を高める。④⑩			
	・ 授業時間の確保に努める。	・ 教科内における填補を充実・徹底させ、授業時間の確保に努める。④			
		・ 教員間の共通理解のもと規律ある集団行動の確立に努める。④⑩			

別紙様式 2 (高)

芸術科	・基礎的な技能を身に付け、自ら発想・表現できるようにする。	・基礎、基本となる実技を繰り返し行い定着させることで、そこから自分らしい発想や表現ができるようにする。①②③⑦⑩			
	・芸術に興味関心を持ち、自主的に作品を制作（楽曲を演奏）しようとする態度を育てる。	・作品を制作すること（楽曲を演奏すること）により、自己を表現する技術を身に付けられるようにする。①②③⑦⑩			
		・作品の提出期限を守るよう指導する。①②③⑦⑩			
		・自主的に思考・判断し、作品を制作（楽曲を演奏）できるようにする。①②③⑦⑩			
	・作品（楽曲）の鑑賞や制作を通して自己を深く見つめる姿勢を培う。	・様々な作例、友人の制作作品（演奏）を鑑賞することにより、作者の心情や意図、表現の工夫等を学べるようにする。①②③⑦⑩			
英語科	・基礎的な内容の理解徹底とともに応用力、実践力を身に付けさせる。	・本校生徒のレベルに合った補助教材とプリントの活用や小テストの実施により、基礎的な内容の理解の徹底と応用問題の解き方を指導する。①②③			
		・個に応じた個別指導を心がけ、より良い進路実現を目指す。①②③④⑤⑥			
	・自学自習の確立を目指し、学年に応じた家庭学習の習慣をつけさせる。	・1、2年生には副教材の単語集・文法問題集・サイドリーダーに取り組みせ、課題を課し小テストなどを通して、その実施状況や定着度をチェックする。①②③			
		・3年生には大学受験用の問題集を用意し、授業で学習方法を説明したのち一部は自宅学習用とし、テストを課して実力養成を図る。①②③			
	・総合的な英語運用能力の養成を図る。	・外部試験等を活用し、英語力を継続的に測定することで授業改善に役立てる。④⑤⑥			
		・4技能の向上を念頭に、授業でのペアワーク、グループワーク等の時間を確保し、主体的に学ぶ力を育成する。①②③			
		・指導に活かす観点別評価を工夫し、指導と評価の一体化を進める。③⑦⑧			
	・指導法や教材についての情報交換と共有化を図る。	・教材を担当者間で共有し、指導の共有化を図る。①			
		・各種研修会に参加し、情報を共有することで指導力向上を図る。⑩⑮			
家庭科	・生活に必要な基本的知識・技術を習得させる。	・生徒が主体的に取り組めるよう適切な教材・教具を提供する。①②③⑩			
		・生徒一人一人の進捗状況に応じた指導を行う。①②⑥⑦⑧			
		・施設・設備の安全管理に配慮し、実験・実習を実施する。①②			
	・自らの生活の向上を図る力と、実践的な態度を育成する。	・学習したことを生かして、自らの生活課題の解決を図ることができるようにする。 ①②⑤⑥⑦⑧⑨⑩			

別紙様式 2 (高)

情報科	・情報活用の実践力を身に付けさせる。	・生徒に課題の内容やその目的を明確に提示し、課題解決の手段を考え、的確に情報を活用できるように指導する。①②③⑧⑩			
	・情報の科学的な理解を深める。	・情報に関する基礎的な理論について、理解が深まるように教材を工夫して指導する。 ①②⑦⑧			
		・プログラミング言語 (Python) の学習を通して論理的思考を深めるように指導する。 ②④⑦⑧			
	・情報社会に参画する態度を養う。	・情報モラルに関する教材は、生徒にとって身近な話題を取り扱い、情報社会に参画する態度をより具体的に考えられるように指導する。①⑥⑦⑧			
	・探究活動におけるデータを正しく扱える知識技術を養う。	・「S P 探究」、「S E 課題研究」における実験や観察等で得られたデータを正しく処理することができるよう、統計教育の充実を図る。①④⑥⑫			
	・共通テスト対策の実施	・共通テスト対策に向けた情報収集と授業での試行を行う。⑧⑮			
教務部	・各教科の学習指導の充実のための支援を行う。	・授業時間の確保のため適切な時間割編成と考査ごとの授業確保のための日程調整を行う。 ①⑦			
		・授業準備の効率化と業務量の軽減のための方策を考える。⑥⑩⑬			
		・ICT 機器の活用について、理解を深める。①⑩			
	・教育課程の研究とその運用と改善を行う。	・指導力向上支援のため、授業の相互参観による研修を推進する。①②③			
		・新指導要領に対応した内規の改正を速やかに行う。①②③⑨			
		・効果的な学習指導を目指した年間指導計画を作成する。①⑦⑩			
	・ネットワーク環境の管理と、不具合への迅速な対応を行う。	・生徒の主体性を引き出す学習指導、評価についての運用と改善を推進する。①②③			
		・「スーパーサイエンスハイスクール事業」(SSH) での教育課程の確かな運用と改善を行う。 ⑩⑪⑫			
		・校内サーバ・PC・プリンター等の管理と不具合への迅速な対応を行う。			
		・教職員と生徒へのセキュリティ情報の迅速な提供と注意喚起を行う。			
	・支援システムの利用への対応。	・情報機器の積極的活用のため、ネットワーク環境の改善を行う。			
		・学校支援システムの活用の研究を進める。			
		・教員向けのネットワーク活用のための情報提供を行う。必要な場合は研修を実施する。			
	・教育情報ネットワーク・学校 Wifi を全員が快適に利用できる態勢を構築する。	・MAC アドレスの登録、GoogleWorkspace を使えるような手続き、その他研修を実施する。 ①⑦⑩			
		・主体的対話的で深い学びにつながる授業改善を図るとともに、知識・技能だけでなく、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する授業や評価法の実践に努める。また、適切な課題を与え、課外等を実施する。①②③④⑩			

別紙様式 2 (高)

学習進路指導部	・学力の向上を図るとともに、主体的学習習慣を身に付けさせる。	・主体的対話的で深い学びにつながる授業改善を図るとともに、知識・技能だけでなく、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する授業や評価法の実践に努める。また、適切な課題を与え、課外等を実施する。①②③			
		・学習記録をつけさせることで、家庭学習時間の確保・増加に努めるとともに学習時間の把握にも努める。②⑥			
		・生徒の学習習慣の確立を援助するために、学習室を平日放課後 19 時まで開放する。また、土曜日も 8 時半から 17 時まで開放する。②⑤			
	・進路意識・学習意欲の高揚を図る。	・集会や配付物（学進通信等）で生徒の進路意識の高揚に努める。④⑥⑨			
		・ガイダンスにより、生徒の能力や適性等自己理解を深化させる。②④⑥			
		・大学模擬授業・進学セミナー等の行事を通して、進路意識・学習意欲・職業意識を高める。④⑥⑦⑧			
		・進路資料・学進通信の内容の適切化に努める。②⑥			
		・キャリアパスポートを活用し、自らの学びや経験を振り返る機会を設けることで、明確な目標を設定し、それを実現するための見通しを持てるよう支援する。②④⑤			
	・進路希望の実現をめざし、進路実績の向上を図る。	・各学年及び教科と連携し、全職員で学校推薦型選抜や総合型選抜の指導にあたる体制作りに努める。⑥⑬			
		・生徒の学力向上及び入試対策のために、課外・面接指導を企画・実施する。①②⑥⑬			
生徒指導部	・職員への進路（進学）データの提供と各教科との連携を図る。	・生徒実態調査（アンケート）を分析し提供する。⑤			
		・河合塾やベネッセと連携し、外部模試データを各教科や学年に提供したり、模試分析ツールの活用法を研修したりすることで、データの有効活用や各教科の弱点発見と克服に寄与する。①②③⑤⑬			
	・制服の正しい着こなしの定着を図る。	・生徒会を中心として生徒自ら正しい着こなしについて考え、生徒相互の確認（校紀委員）や職員により正しい制服の着こなしやマナーを考えさせる。⑦⑨			
		・PTA合同の交通安全指導等により、自転車運転ルールの遵守を指導する。⑦⑨			
	・「交通ルールを守る」等の交通指導を継続実施する。	・自転車の鍵閉めや、ヘルメット着用を強く推奨、自転車点検整備などにより、自転車の自己安全管理の指導をする。⑦⑨			
		・校則（服装等）や指導の方法（スマートフォン等）が変わる中で、文書や職員会議などで確認しながら、全学年で共通理解を持って指導する。⑥⑦			
	・教職員の生徒指導に対する意識の統一を図る。	・講習会等を利用しながら、スマートフォン等のマナーをしっかりと理解させ、安全で節度ある利用の仕方について注意喚起する。⑦⑨			
		・定期的にネットパトロールを実施し、不適切な書込みについてはその都度指導していき、いじめ等の未然防止に努める。⑦⑨			

別紙様式 2 (高)

特別活動部	・行事への参加意識の高揚と職員の協働体制の構築を図る。	・行事において生徒一人ひとりが一役を担い、自主的・主体的に活動できるよう企画・運営を進める。①②		
		・特別活動部の情報の共有化を図り、組織的な運営ができるような体制を整える。⑬		
		・生徒会本部役員の立候補者が確保できるように、各学年との連携を深め、リーダー育成のための活動の場を設ける。⑨		
	・部活動と学習の調和を図る。	・部活動では、本校の部活動運営方針を踏まえて適切な休養日を設け、生徒の健康や生活リズム等に配慮するとともに、各学年と連携しながら学習時間の確保を指導する。⑬		
		・部室の使用と管理について規則を遵守させる。⑨		
	・「緑高祭」の質の向上を目指す。	・実行委員会を中心に生徒の主体性を重視し、参加意識を高めるとともに質の向上を目指す。①②		
		・企画・運営におけるリーダーを育成するための活動の機会を設け、組織力を高める。①②		
	・活発な部活動を維持する。	・運動部・文化部とも活発な活動を学校全体で支援できるような体制作りを行う。⑬		
	・キャリアパスポートの実践に取り組む。	・自らの学習状況と部活動やホームルーム・学校行事等での活動を記録することで総合的な自己評価につなげる。①②④		
	保健厚生部	・健康相談の充実と健康教育の啓発を行う。	・保健室来室者・担任等の情報により精神的ケアの必要な生徒を把握し的確な指導をする。⑤	
・教育相談部のスクールカウンセラー制度との連携を密にし、チーム支援を行う。⑤				
・保健委員会と連携し、「健康講話」を実施する。①				
・学習環境の整備と美化の推進を図る。		・清掃監督者や整美委員会等と連携し、学習環境の美化を維持する。⑦⑧		
		・授業担当者・事務と連携し、エアコン使用時の換気・設定温度を徹底する。⑦⑧		
・防災意識の涵養と災害を想定した適切な避難誘導を行う。		・全職員が役割を分担して誘導に当たり、安全かつ迅速な避難行動がとれるように防災避難訓練を実施する。⑦⑧		
・奨学金応募業務の円滑化を図る。		・迅速に情報を提供し、応募生徒の書類の確認・指導、申請を的確に行う。⑪		
・昼食販売の円滑な運営を図る。		・行事日程等の連絡を販売業者に伝える。⑬		

別紙様式 2 (高)

図書部	・授業、発展的学習、進路指導に活用できる図書を更に充実させる。	・各教科、各分掌、生徒（6月校外図書選定等）からの希望・推薦図書を揃える。①④		
		・学習進路指導部と連携し、前後期に進路関係の図書を充実させる。④⑤⑥		
		・理数科と連携し、理科関係の「SSH図書コーナー」を充実させる。⑩⑪⑫		
		・「SP 科学」、「SP 探究」のための図書の充実を図る。⑦⑧⑩		
		・学校内における生徒の居場所として、開かれた図書館を目指す。②④⑥⑦⑧⑩		
	・生徒の図書館利用を促進する。	・年間 2000 冊以上の利用を目指して貸し出し業務や委員会活動を行う。②④⑥⑦⑧⑩		
		・国語科と連携し、4 月の「1 学年図書館オリエンテーション」を実施する。①②⑦		
		・図書委員編集による「図書館ニュース」（「図書館報」）を毎月発行し、広報活動を推進する。①②⑦		
	・図書委員会の活動を活発にする。	・授業日のカウンター当番を各クラス図書委員が行い、委員会活動を活発にする。①②		
		・図書委員生徒の編集による「図書館ニュース」（「図書館報」）を毎月発行し、広報活動を積極的に行う。①⑩		
		・図書委員会として「校外図書選定」を実施し、購入希望図書の選定を行う。①⑩		
		・図書部の研修会に参加し、活動の活発化を図る。①②⑩		
	・視聴覚教材を充実させる。	・DVDを開架し、校内での利用を促進する。①②⑩		
		・各教科、各分掌等からの教材推薦を受けて視聴覚教材の充実を図る。①②⑩		
渉外部	・会員にPTA活動に更に関心を持ってもらうように働きかけを行う。	・PTA総会の開催の仕方や学年懇談会・公開授業方法について、会員の意見を取り入れながら実施していく。⑩		
		・広報部と連携することで、PTA活動・同窓会活動の状況をできるだけリアルタイムで発信する。⑩		
	・充実したPTA活動になるよう企画・実施する。	・PTAの連携を図り、緑高祭におけるPTA企画やPTA教育講演会が実施できるよう計画・立案する。②⑩		
		・魅力ある講師を招聘することで、保護者のみならず生徒にも呼びかけ、教育講演会の充実を図る。④⑩		
	・PTA常設委員会の活性化を図る。	・各常設委員会に対して、学校行事等でサポートを継続することにより、各常設委員会がPTA会員のネットワークづくりの中心となるように推進していく。⑩		
		・PTA生徒指導委員会や選考委員会、広報委員会への丁寧な参加案内することで、常設委員が中心とした企画・運営ができるようサポートする。⑩		
広報部	・広報・PR活動を推進する。	・スクールガイド・ポスター・ホームページ等による広報活動に努める。⑦⑫		
		・各種メディアや学校訪問による広報活動に努める。⑦⑫		
		・本校生徒による中学生のための「学校説明会」を実施する。⑦⑫		
		・本校の広報・PR活動の新たな可能性について広く調査・研究し、その成果を形にするよう努める。⑦⑫		

別紙様式 2 (高)

教育相談部	・問題を抱える生徒を早期に発見し、職員間で情報共有する。	・学年と協力し問題を抱える生徒を早期に発見し、相談部内・職員間の共通理解と連携をはかる。⑩⑬			
		・年度始めや夏休み明けの機会に、校内外の相談窓口を周知する。⑩⑬			
	・教育相談研修会を実施し、教職員の理解と意識を高める。	・生徒の心の問題に深い理解と経験を持つ講師を招いて研修会を実施する。⑳			
		・研修後に本校職員対象のアンケートを実施して意識を高める。㉑			
	・スクールカウンセリングの充実をはかる。	・スクールカウンセラーの継続的なカウンセリングを実施する。⑩⑬			
		・コンサルテーションを実施することにより、スクールカウンセラーと教育相談部員・クラス担任・学年との連携をはかる。⑩⑬⑭			
理数部	・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の円滑な実施	・各SSH事業において適切な人員を配置するとともに、効率的な運営計画を策定する。また会議や協議の適宜開催、情報ツールの積極的な利用等によって、職員間の連携促進を図る。⑩⑪⑫			
		・予算について、執行計画に基づいて適切に執行し、SSH事業の充実を図る。⑩⑪			
	・課題研究・探究活動の充実	・「探究Ⅰ」を教科横断的な視点に立ったICT技能習得や地域探究の場として再定義し、カリキュラム・マネジメントの中核とする。⑦⑨⑩⑪⑫			
		・「SP探究」の課題を整理し、効果的な実施方法を検討する。⑥⑩⑪			
		・「SE課題研究」について、研究内容のレベル向上を目指し、研究テーマや課題設定に重点をおく。またチューターの効果的な配置、運用方法について検討する。①⑩⑪			
		・研究成果の発表・評価の場として、外部のコンテスト、発表会等への積極的な参加を図る。④⑩			
	・中・高・大・企業・地域連携	・課題研究・探究活動・部活動等をととして、小中高等学校、特別支援学校、大学、地域や企業と連携し、SSH事業の成果の普及を図る。⑪⑫			
事務部	・計画的・効率的な予算執行に取り組む。	・限られた予算の中、将来を見通した教育環境整備を図るため、計画的・効率的に予算を執行する。			
	・安心安全な教育環境の整備保全に取り組む。	・施設設備の日々の点検及び迅速な修繕により、生徒が安心安全に教育活動を行える教育環境の整備保全に取り組む。			
	・学校の窓口としての丁寧な接遇に取り組む。	・電話や窓口等においては、誠意ある態度・応対によって県民サービスの向上を図るとともに、生徒や保護者との関わりを通じて相互の信頼関係を高めるように取り組む。			

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない